

第28回「桃陰文化フォーラム」ご報告

5月25日(土)午前10時から視聴覚教室において第28回「桃陰文化フォーラム」が開催されました。



今回は高校13期生の仲俊二郎(本名仲元俊二)先生をお招きし、「生き方探求—キャリアパスをどう選ぶ?—ドーバー海峡トンネルのプロジェクトマネージャーから一転、70歳で小説家になった〜」と題するご講演で、在校生・保護者・先生と同期の13期卒業生など60名ほどが静かな語り口の中に情熱を秘めた先生のお話に聞き入りました。

中井校長のご紹介のあと登壇された先生は、最初に50数年ぶりの母校への訪問に懐かしさ一杯である、母校で講演できることを光栄と思っている、在学中は劣等生で勉強しなかったと回想された後、ご自分のキャリアパスについて、大阪市大経済学部を卒業し川崎重工へ入社したものの配属先が意に添わず、何度も転属を願い出たが採り上げられなかったため、海外プロジェクトを担うというご自分の夢を実現するため意を決して3年間毎日英語を3時間学習し、英検1級を取得されたこと、その後念願の東京本社へ異動しダム建設や観光開発を手がけられ、課長の時世紀の大プロジェクトである「ドーバー海峡トンネル」掘削工事の受注に成功され、プロジェクトマネージャーとして数多くの難問を乗り越えプロジェクトを成功に導いたというご経験を話されました。お話の合間にご著書の「ドーバー海峡の朝霧」のご紹介やぼろぼろになった英語の参考書、フランス側海底の地層であるチョーク片を見本として回され、最初は受注額と同じくらいの赤字が出、上司に叱責されたりもしたが、契約書に数々の工夫を忍ばせていたため完成後は同額の



利益が出た、おかげで発注先とも

win-winの関係をつけたと述べられました。その後、50歳を前に外資のハーキュリーズジャパンへ転職、さらに経営コンサルタントを務められるかたわら、70歳を境にこれからの人生をどう生きるかを見つめ「作家になろう。」と決意され、わずか2年のうちに「我れ百倍働けど悔いなし」「大正製薬上原正吉とその妻小枝」など数冊の本を上梓されました。



2時間近くのお話の中で先生の「一度きりの人生だからやりたいことをやる。」「作家になるのは簡単、誰でもなれる。ただし、熱情と根気は必要。」「キャリアを決める三要素は自律・他律・偶然」「人間の能力には流動性能力と結晶性能力があり、これからの高齢化時代、結晶性能力を生かして65歳からの人生を切り拓こう。」というお言葉が聞く者に勇気を与え、先生の静かな情熱が胸にしみいるような気がしました。

お忙しい中、また遠いところをお越しいただいた仲先生にあらためてお礼を申し上げます。ありがとうございました。